

崔 恩瑛 (チェ ウンヨン)

韓国出身

上智大学 文学部文学研究科 博士課程

最近の国際情勢についての再考

国際関係の変化は、人権問題のもとのなるものでもあり、解決の糸口も国際関係の変化にあると思います。

脱北者問題でも同様で中朝関係の影響下に脱北者の強制送還が行なっていますが、瀋陽領事館駆け込み事件、北京日本学校駆け込み事件などは、治外法権問題とも重なって、救助される場合がほとんどでした。これは、領事館以外の在中日本学校のみならず、在中ドイツ学校、在中韓国学校への駆け込み事件も含まれています。別の意味で今年のウクライナ戦争も国際関係の影響を現実的に見せた事件であります。近30年の表面的に平和に警鐘を鳴らし、いつでもどこも誰(リーダー)の決定によって我々市民は戦場に追い出されなければならないという可能性に恐怖を感じました。

戦争は歴史本の中で見るのではなく、今すぐどこかで起こるかもしれないということを知らせたためであります。

何年まえからハーバードのマイケルサンデル先生は今時代の若者たちのナショナリズムの拡大に国際関係にも影響を及ぼすかもしれないと言っていました。

日中韓の関係も同じです。

ヘイトスピーチ、サイバー上の3カ国若者の極端的発言は、理解する人は極端的な人が少数であることを知っているが、よく知らない立場では、その国に対しての印象と固着化されます。日韓関係には中国、中韓関係には日本、日中関係には韓国によると言われるほど、愛憎が事件によって度々変化するようにみえます。

特にウクライナ戦争が始まってからは、関連諸国が30年前の冷戦時代に戻ったように緊張感に落ち、ウクライナを批判、ロシア支持の側とウクライナ支持の側に綺麗に分かれました。

身近には、ウクライナ戦争が始まってから、ユニシエフの支援募集ページをSNSに載せただけで、中国の友人に怒られたことも耳にしています。

今回の韓国大統領選挙でも民間専門家らは、李と尹の近い票差が近かったことから尹の当選について親米公約にもあるが、中国の極端派のサイバー攻撃も一助していると言っています。サイバー上の口舌戦から一国の大統領大選にも影響されるのは驚くことでもあります。

このような状況でよく考えるべきことは、現在の国際関係の上での問題点の羅列ではなく、微力でも実際に我々は何ができるかです。

日中韓3国ともに長く暮らした人としては、3国がともに再度友好に、偏見なしに文化交流ができた時に戻ることを願っています。

以上